

社会科

中学生の 歴史



日本の歩みと世界の動き
拡大版【26P】 ①



中 社会科 中学生の歴史
日本の歩みと世界の動き
(歴史 732)
拡大版【26P】 (全7分冊)①



帝国書院

中学校歴史 26ポイント A4版

タイムトラベル①②

じょうもん

縄文時代をながめてみよう

(紀元前35～前20世紀ごろのある場面)

A

B

C



20-1

やよい
弥生時代をながめてみよう
(紀元1～3世紀ごろのある場面)

D

E

F



21-1



次の場面を探してみよう！

次の場面は、**ア**～**カ**のどれにあたるか、()
に記号を入れてみましょう。

- ヒント** ①(➡ **22-4** ページ) ②(➡ **23-4** ページ)
③(➡ **24-3** ページ) ④(➡ **22-1** ページ)
⑤(➡ **24-7** ページ) ⑥(➡ **22-6** ページ)

①, 穴を^ほ掘り, その上に屋根をつけた^{じゅうきよ}住居に住んで
います。 ()

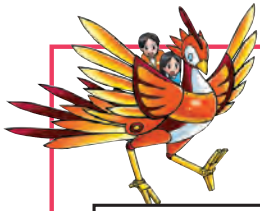
②, 床を高くした^{ゆか}倉庫に, ^{しゅうかく}収穫した米を運んでい
ます。 ()

③, 集落のまわりには, ^{さく}柵と^{ほり}濠がめぐらされています。
()

④, 落とし穴を使って, いのししをつかまえています。
()

⑤, ^{せいどう}青銅の鏡をもちいて, まじないを行っています。
()

⑥, ^{なわ}縄などで, ^{どき}土器に^{もよう}模様をつけています。 ()



私たちは^{げんし}原始の日本列島にきています。


20-1 ページは、^{じょうもん}縄文時代といわれる時代で、

東北地方のある集落のようすです。 **21-1** ペー

ジは、^{やよい}弥生時代といわれる時代で、九州地方のある集落のようすです。

二つの時代のタイムトラベルを比べてみると、道具や建物などに変化したものや変化しなかったものがあります。どのようなところに各時代の特色があるのかを考えながら、ながめてみましょう。

小学校で学んだおもなできごと

^{じょうもん} 縄文時代	^{やよい} 弥生時代	^{こぶん} 古墳時代
約1万年前 日本列島が 大陸から切 りはなされる	紀元前 3世紀 ^{いなさく} 稲作 が伝わる	紀元3世紀 卑弥呼が ^わ 倭国の 女王と なる
		5世紀 ヤマト王権 ^{せいりよく} が勢力 を広げる
		 ^{ひみこ} ↑① 卑弥呼

21-2

1

縄文から弥生へ の変化

学習課題

縄文時代から弥生時代にかけて、人々の生活はどのように変化したでしょうか。

どき 土器が生まれた縄文時代

氷期 (→ 13-3, 13-4 ページ) が終わり、海水面が上昇すると、日本列島は大陸から切りはなされ、約1万年前に、ほぼ現在の姿になりました。日本列島では、気候が暖かくなったことで森林が広がり、食用となるどんぐり・くるみなどの木の実や、い

のしし・しかなどのけものが増えました。
また、魚や貝もさかんにとられるようになりました。

狩り（➡ 20-1 ページ ウ）や 漁（➡
20-1 ページ A 1）・採集（➡ 20-1 ペー
ジ A 3）で得た食料の保存や煮たきのため
に土器を使うようになり、食べられる物の
種類が増えて、食生活は豊かになりました

②。このころの土器は、表面に縄目の
文様がつけられていることが多いので

縄文土器（➡ 20-1 ページ イ）③とい

います。食生活の充実で人口も増え、地面
に穴を掘り屋根をつけたたて穴住居（➡

20-1 ページ ア）①に定住するようにも
なりました。住居の近くには貝塚（➡

20-1 ページ A 1）①ができました。また、

22-2

食物が豊かにみのあることなどをいのり，ま
じないに使うための土偶（^{どぐう}⇒20-1ペー
ジA2）④もつくられました。

青森県の三内丸山遺跡^{さんないまるやまいせき}では，当時の
人々が，すぐれた技術で大きな建物をつく
り（⇒20-1ページB1），たいへん遠い
地域と物の交換^{こうかん}を行っていたことがわ
かっています。こうした生活が続いた約
1万年前から紀元前3世紀ごろまでの時期
を縄文時代^{じょうもんじだい}，またその文化を縄文文化と
いいます。

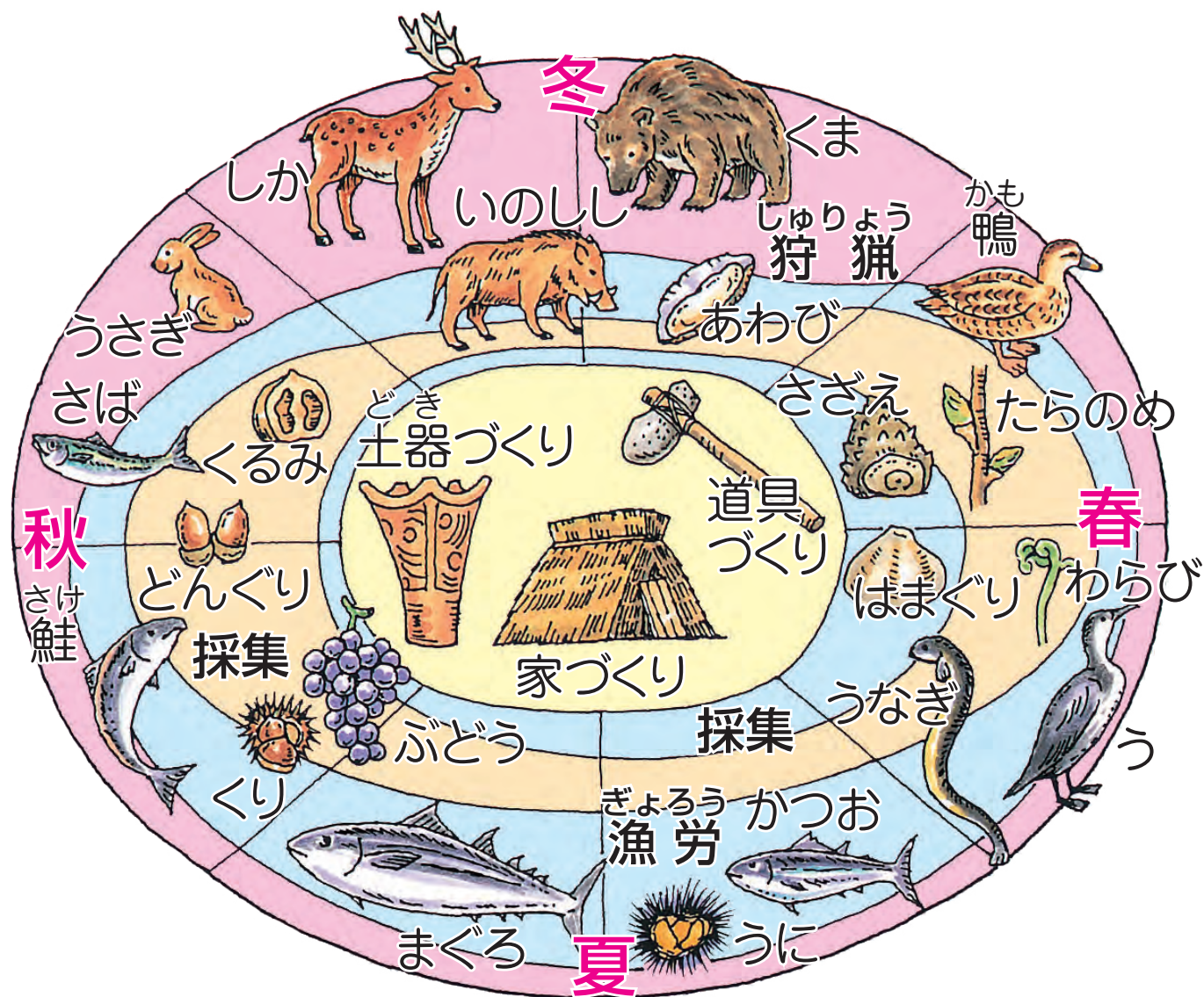
① 集落近くのごみ捨て場のことで，貝がらだけで
なく，石器^{せっき}や土器^{どき}などがふくまれ，当時の人々の暮
らしを知ることができます。

↓① たて穴住^{じゅうきよ}居での暮らし

〈画：安芸早穂子氏 成美堂出版『全国訪ねてみたい遺跡 100』〉



かいづか じょうもん
 ↓② 貝塚などからわかる縄文時代の人々の食生活



じょうもん やよい どき
 縄文時代と弥生時代の土器にはどのような違いがあるのかな。



↓ ③ じょうもんどき
縄文土器



(全長約32cm)
〈青森県出土『深鉢形土器』
東京国立博物館蔵〉



**国
宝** (全長約47cm)
〈新潟県出土
『火焰型土器』
十日町市博物館蔵〉

どぐう
↓④ 土偶 女性の形をしているものが多いといわれています。〈左 青森県出土 東京国立博物館蔵 重要文化財，右 山形県出土 山形県立博物館蔵〉



(全長約34cm)



国宝

(全長約45cm)

22-7

縄文時代の終わりごろ，中国や朝鮮半島などから北九州へ渡来した人々が稲作を伝え，稲作は西日本から東日本へと広まっていきました。このとき渡来した人々と縄文人が少しずつまじり合い，のちの日本人や文化が形づくられていきました。土器も縄文土器よりうすくてかたく，米の保存・煮たきに適した弥生土器（➡ 21-1 ページ D 2）⑤がつくられるようになりました。

稲作には多くの人々が協力して作業することが必要でした。人々は木製の鋤や鍬でたがやし，水田を広げました。収穫した稲は石包丁や鉄製の鎌で穂先をつみ取り（➡ 21-1 ページ F 3），稲穂からもみ

がらを取り去るには、きねとうすを
使いました（➡ **21-1** ページE2）。また水田
近くの台地に定住してムラ（集落）をつ
くり、たて穴住居（➡ **21-1** ページE2）
に住みました。稲をたくわ蓄えるための高床倉庫（➡
21-1 ページ**オ**）⑥もつくられました。

稲作とともに、せいどうき青銅器（➡ **15-7** ページ）
や鉄器（➡ **16-2** ページ）も中国や朝鮮
から伝わりました。どうたく銅鐸⑦やどうけん銅剣⑧・
どうほこ銅矛などの青銅器（➡ **21-1** ページD1）

は、豊作を神にいのる祭りの道具として使
われました。青銅器よりかたい鉄器は、武
器や工具として用いられました。この時代を
やよい弥生時代、その文化を弥生文化といい、紀元
前3世紀ごろから紀元3世紀ごろまでの約
600年間続きました**2**。ただし、日本列島

23-2

全体にいつせいに稲作が広まったわけではなく、縄文時代と変わらない狩りや漁の生活を続けていた地域もありました（➡

25-8 ページ）。

② 近年、土器^{どき}についておこげ^{たんかまい}（炭化米）の科学的な^{ぶんせき}分析^{やよい}によって、弥生時代の始まりは、これまでよりも古い紀元前10世紀と考える説も出されています。

↓⑤ ^{やよいどき}弥生土器（2世紀ごろのもの） 弥生土器の呼び名は、明治時代に現在の東京都^{ぶんきょう}文京区弥生から土器^{たかつき}が出土したことからつけられました。左から「高坏」「つぼ」「かめ」。〈大阪府出土 東大阪市立郷土博物館蔵〉



（全長約22cm）



（全長約27cm）



（全長約25cm）

23-3

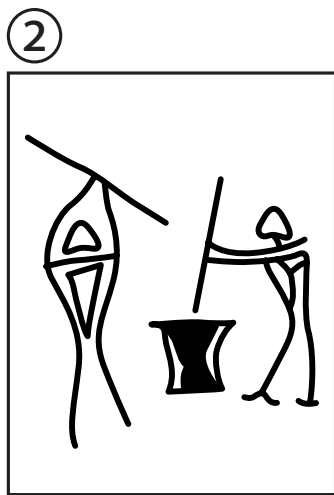
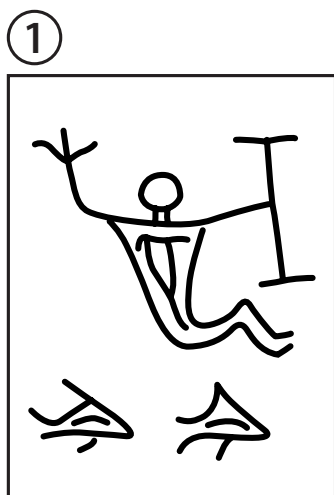
↓⑥ 秋の収^{しゅうかく}穫のようす

〈復元模型 大阪府立弥生文化博物館蔵〉



23-4

↓⑦ ^{どうたく}銅鐸（右）と表された^{もよう}模様（左2点）
 〈兵庫県出土 神戸市立博物館蔵〉



(全長約39cm) **国宝**

縄文く弥生

23-5

↓⑧ ^{こうじんだにいせき} ^{どうけん} 荒神谷遺跡の銅剣 ^{いずも} (島根県出雲市)

この遺跡では銅剣 358 本・銅矛 ^{どうほこ} 16 本・銅鐸 ^{どうたく} 6
個が見つかりました。一箇所 ^{かしょ} に埋められた理由ははっ
きりしていません。

〈島根県教育庁埋蔵文化財調査センター提供〉



確認しよう

じょうもん やよい とくちょう
縄文時代と弥生時代の特徴

を、本文からそれぞれ二つ以上書き出してみま
しょう。

説明しよう

じょうもん やよい
縄文時代から弥生時代にか

て生活が変化した背景を、^{いなさく}稲作とかかわらせて
説明してみましょう。